


教材事例書式

教材教具名 時計早見表	教科 (数学)	報提供者 ( 中学部 3 年生 )
<p>教材教具写真</p> 		
<p>教材教具の概略 (ねらいと使い方) ※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等</p>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ねらい : アナログ時計を読み取れることをねらった教具である。第一段階としては、「〇時」が分かるようにしたい。</li> <li>2 発達段階 : 時刻を読むことは全くできない。1～5までの足し算も具体物を操作することでやっとできる程度。10以上の大きい数字を読むことが難しいため、現在は15分までの時刻を読むことを目標にしている。</li> <li>3 使い方 : 生徒が一番目にしやすい時計 (教室の時計) にセットする。内側は短針用、外側は長針用の目盛りを貼り付けている。短針用には、1時間ごとに数字が書かれており、さらに色分けをすることで視覚的に分かりやすくしている。長針用には、1分ごとに目盛りと数字を書いている。</li> </ol>		
<p>児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等 (次に利用する方のために)</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の理解度に応じて、長針用の目盛りを5分単位にしたり、10分単位にしたりすると発展的に取り組めると思う。</li> <li>・ 長針用の目盛りをもう少し大きくするとより見えやすく、分かりやすくなる。</li> </ul>		